

Fluvoxamine から paroxetine への置換前後における抗うつ効果及び忍容性の違い

Differences in clinical effect and tolerance between fluvoxamine and paroxetine: A switching study in patients with depression

鈴木雄太郎、常山暢人、福井直樹、須貝拓朗、渡邊純蔵、小野 信、染矢俊幸

新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

Human Psychopharmacology: Clinical and Experimental 2010, 25(7-8) 525-9.

【はじめに】

うつ病治療において、最初の選択的セロトニン再取込み阻害薬 (SSRI) に反応しない場合でも、別の SSRI に反応する可能性があることが報告されている。実際にうつ病治療アルゴリズムでは、第 1 選択薬の SSRI で効果不十分の場合、第 2 選択薬にも別の SSRI へ置換することが推奨されているが、実際の臨床現場では、第 1 選択薬である SSRI の効果が不十分であったり、消化器系副作用などで中断した場合、第 2 選択として他の class の抗うつ薬が選択されることが多い。Fluvoxamine (FLV) 及び paroxetine (PRX) は本邦でも広く使用されているが、この 2 剤の置換において、前薬の中断及び抗うつ効果が置換後の中断や効果を予測するかどうかについて、これまで報告はない。本研究では、同一個体において先行して投与された FLV に対する中断及び反応性が、置換後の PRX による中断や反応性を予測するかどうかについて検討した。

【対象と方法】

対象は新潟大学医歯学総合病院精神科外来をうつ病の治療のために受診した 18~65 歳の患者で、初診時のハミルトンうつ病評価尺度 (HAMD) が 18 点以上であった 106 名。初診後、FLV 最大 200mg までの治療を行い、経過中に FLV を副作用で中断するか、FLV 200mg での治療に対して非寛解であった症例を全例 PRX へ置換した。PRX は 10mg より開始し、寛解を目標に最大 40mg まで増量し、2 週毎に HAMD 及び副作用を評価した。本研究は新潟大学医学部遺伝子倫理審査委員会の承認を受け、書面にて同意の得られた患者を対象とした。

【結果】

FLV を副作用で中断した 10 例中、PRX も副作用で中断したのは 1 例 (10%) であり、FLV 最大 200mg による治療で非寛解であった 33 名中、PRX を副作用で中断したのは 2 名 (6.1%) であり、両群間において副作用中断率に統計学的有意差を認めなかった。FLV を副作用で中断した 10 例中、PRX 治療で寛解に至ったのは 4 例 (40%) であり、FLV 最大 200mg による治療で非寛解であった 33 名中、PRX 治療で寛解に至ったのは 9 名 (27.3%) であり、両群間において寛解率に統計学的有意差を認めなかった。

【結論】

うつ病治療において、先行して使用された FLV の副作用による中断や反応性は、次に使用する PRX に対する副作用による中断や反応性を必ずしも予測しないことが示された。